

イスラームの宗教教育

610年頃にムハンマドが啓示を受けて始まったイスラームは、現在では、世界に約19億人のムスリムを有する。この信仰者数は、1400年以上の歳月を、幾世代にもわたって信仰が紡がれてきた結果であり、ムスリム人口はさらに増加している。2022年11月には、世界人口が80億人を突破したことが国連の調査で明らかとなった。したがって、ムスリムは世界人口の5人に1人の割合で存在していることになる。日本では少子化が社会問題となっているが、イスラームが国内の主たる宗教となっている途上国ではベビーブームである。現在のペースでいけば、4人に1人の割合となるのはそれほど先のことはないだろう。

イスラームにおける信仰は、「六信五行」という語を通して端的に説明される。「五行」については、本連載で説明してきたところであるが、信仰告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼の5つを指す。これら5つは、ムスリムが一日、一ヵ月、一年、一生をかけて行う信仰実践である。それに対して、「六信」は、神、(諸)天使、(諸)聖典、(諸)預言者、来世、運命を指す。これら6つは、それらの真正性を信じるということである。つまり、ムスリムは、神(アッラー)を信じ、神の啓示である(諸)聖典(キターブ)とそれらを伝えた(諸)天使(マラカ)を信じ、教えを人々に伝える預言者(ラスール)を信じ、現世が終わり来世が到来することを信じ、神が定めた運命を送りそして死を迎えることを信じるという意味である。

イスラームの宗教教育は、その最初の段階として、宗教をめぐる知識と行動を伝えて、六信五行という教えを子どもたちの生活のなかで身体化していくことであると言えるだろう。その後、イスラーム諸学として知られるイスラーム神学、イスラーム法学、クルアーン学、ハディース学、霊知学(イスラーム神秘主義)などに細分化され体系化された学問を緻密に学んでいくことになる。

幼少期の教育

どのように子弟子女をムスリムとして育てていくかは、当然ながら、各家庭によって異なる。言い換えれば、宗教教育が体系化されているわけではない。幼少期には、両親に連れられてモスクへ一緒に行く。両親は礼拝のために来ているわけだが、子どもたちはジツとしていられない。筆者は入場を断られないかぎり、モスク内でムスリムたちの礼拝を後ろから見学してきた。そんなときに目につくのは、大きなモスクの後ろで走り回る子どもたちである。

筆者は男性スペースにいるため、父親のケースしか分からないが、確かに親と一緒に礼拝している子どもたちもいる。しかしながら、幼児たちは後ろで自由に走り回っている。また、親の姿を真似て礼拝する素振りをしたかと思えば、どこかへ歩いていく子どももいる。つまり、親の姿を見て信仰を少しずつつづんでいくのである。

クルアーンのエデュケーション

「おもちゃ」と言うと遊ぶための玩具のように聞こえてしまうが、アラビア語で伝えられた聖典クルアーンを学ぶための学習おもちゃが売られている。この教育玩具は、アラビア語を母語とする子どもであればクルアーンの章句を覚えるために、アラビア語が母語ではない子どもであれば、アラビア語に親しむところから始めるためのものだろう。

クルアーンは114章から成る。そのため、このおもちゃには沢山の

ボタンがあり、そこを押すと各章がアラビア語で流れるという仕組みである。おもちゃと言っても馬鹿にはできないほど精巧に作られている。

子どもに与えられたときには「おもちゃ」であるが、筆者がその存在を知ったのは、クルアーンを学びたいマレーシア人大学生が持っていたからである。彼らにとっては、それは「おもちゃ」ではなく学習道具であった。教えを学ぶ始まりは人それぞれであり、たとえば子ども向けの絵本やアニメを通してイスラームについて学ぶ大人もいる。

その他に親が買い与えるおもちゃとして、クルアーンが流れるガラガラがある。実際はガラガラと鳴らずに、クルアーンの章句が流れる。赤ちゃんは音が流れるものを好み、色々なボタンを押すようになる。ボタンを押すと、音楽ではなくクルアーンが流れる仕組みである。全てのムスリム家庭がそうしたおもちゃを我が子に与えるということはないであろう。しかしながら、子守り歌代わりにクルアーンを聞かせながら、小さな時から教えに親しませたいという親の思いが込められている。

クルアーン学校

イスラームの宗教教育として代表的だと思われるのは、クルアーン学校である。我が子がイスラームの教えの根幹を成すクルアーンを朗誦できるようにと、通わせるのである。各地域によって差異はあるだろうが、今回は筆者の友人のAを紹介したい。

セネガルで育ったAとはマレーシア国際イスラーム大学で出会った。Aはハーフィズ(Hāfiz、クルアーンを全て暗記している者)である。セネガルはフランスの植民地であったこともあり、現在も公用語はフランス語である。そうしたなか、Aは幼少の頃よりクルアーン学校に通い、10歳になる前からクルアーンを少しずつ暗記していったという。天理教で言えば、少なくとも「おふでさき」を全て暗記しているようなものであろうか。

ハーフィズという存在が登場した理由は、イスラーム初期に遡る。クルアーンの啓示は、預言者ムハンマドによってアラビア語の「音」として伝えられた。彼を含めてクルアーンの啓示を暗記している者がいたと伝えられるが、彼の逝去後、イスラーム世界の拡大により彼の周囲にいた人々のうち、ハーフィズであった者が次々と亡くなったり、地域によってはクルアーンの章句に異同が生じ始めた。そこで、第3代カリフのウスマーンの時代に正典(権威本)としてまとめられた。預言者ムハンマドは読み書きができなかったと伝えられるが、アラビア語の「音」で伝えられ、耳を通して記憶されたということが、ハーフィズという存在を生み出した。

そのため、ムスリムの友人たちが礼拝するとき、Aはハーフィズであるがゆえに、多くの場合イマーム(礼拝の指導者)を務めることが多かった。神の言葉を全て暗記することができたのは、彼の努力に他ならないが、なによりイスラームの宗教教育の賜物でもある。これを「素晴らしい」と捉えるか、「やりすぎ」だと考えるかは、その者の宗教や信仰に対する姿勢による。



クルアーンを学ぶための教育玩具。ノートパソコンのような形状をしている。
(https://www.alibaba.com/product-detail/Arabic-Learning-Machine-Kids-Quran-Toy_62420609564.html)
2023年2月8日アクセス